原　著
Japanese Journal on Support System for Developmental Disabilities

デンマークの学童保育及び読字書字特別学級における ペダゴーの支援の実際と専門性の分析

山浦　祐香　長野県安曇養護学校
是永　かな子　高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門
／高知ギルバーグ発達神経精神医学センター

要　旨：デンマークの学童保育及び読字書字特別学級におけるペダゴーの支援の実際と専門性を分析することを通じて，保幼小連携や多職種連携の視座を得るため，調査研究を行った．結果は以下である．ペダゴーは日常的に子どもの「生活」を支援する専門家であった．その上で，ペダゴーが参画する移行支援では，障害児には定期的な会議が，障害診断がない子どもには引き継ぎのための会議が開催されており，ペダゴーは保護者や多領域の専門家との連携の役割も担っていた．就学前教育機関修了から国民学校就学までの期間には，学童保育においてペダゴーが提供された情報と個々の実態把握に基づいて，国民学校就学後の学級編成を行っていた．就学後の個別の計画作成の際には，教員は教科指導を，ペダゴーはコミュニケーション指導を担当するなど，明確な役割分担があった．教育と福祉の観点を有する専門家としてのペダゴーは，日本にも示唆的である．

Key Words：　デンマーク，ペダゴー，専門性，学童保育，読字書字特別学級

Ⅰ．問題

本稿では，デンマークのペダゴー(Pædagog)に注目する．ペダゴーは就学前教育機関(Førskoleundervisning og børnepasning)[33]や学童保育(SFO/fritidshjem)[5]，国民学校(Folkskole)，特別学校(Specialskole)，障害児者施設[31]，特別なニーズのある若者を対象とする教育制度 STU (Særlig tilrettelagt ungdomsuddannelse)[17]などに勤務する教職員が有している資格であるため，保育士[25][32]や生活支援員[27]，社会生活指導員[32]等と訳されることがある．まず以下にデンマークの就学前教育，学校教育制度，ペダゴーの概要を示す．

デンマークの就学前教育は，3 歳未満を対象とした保育所(Vuggestue)と 3 歳以上の幼稚園制度(Børnehave)，双方の機能をもつ教育機関(Daginstitutioner)もしくは少人数でのデイケア(Dagplejere)で構成されており，公的な就学前教育の提供は自治体の管轄である．私的な就学前教育機関も存在するが，少なくとも 75%は補助金が支給される[12]．その後就学前の 1 年間(0 年生，Børnehaveklassen[6]以下，就学前学級)と 6 歳もしくは 7 歳から 16 歳までの 9 年間(1 年生から 9 年生)が義務教育として国民学校もしくは私立学校(Fri- og privatskoler)，特別学校や自宅学習を含む他の教育形態で保障される[2]．例えば 2018 年の就学前学級は 50,137 人(81.7％)が国民学校を選択し，10,520 人(17.1%)が私立学校を，567 人(0.9%)が特別学校を，143 人が他の教育形態(0.2%)を選択していた[10]．9 年生修了後は進学のみならず，非義務制の 10 年生(10. klasse)[4]や 14 歳から 18 歳を対象とした社会教育としてのエフタスコレ(Efterskoler)[3]を選択することもできる．

さて，ペダゴーは英語で Social Educator[20]と訳されるように，「発達(Udvikling)」と「ケア(Omsorg)」の専門家であり，その資格習得には専門大学における 3 年半課程の修了が課されている[35]．ペタゴー養成課程では支援対象を前提に 3 つの特別専門コースが設定される[35]．第一は，0 歳から 6 歳児を対象とした保育・幼児教育(Dagtilbudspædagogik)であり，子どもの発達，健康・福祉・幸福(Trivsel)，教育(Dannelse)，学習(Læring)を支援する教育活動について学ぶ．第二に，6 歳から 18 歳を対象とした，学校と余暇教育(Skole- og fritidspædagogik)であり，子どもや若者の発達，健康・福祉・幸福，学習について学び，アイデンティティの形成

(Identitetsdannelse)，人間関係(Relationer)，コミュニティ(Fællesskaber)，インクルージョン(Inklusion)に焦点を当てる．第三に，特別なニーズ(Særlige behov)のある子どもや若者，社会的困難(Sociale vanskeligheder)を抱える人々，精神的・身体的障害(Psykiske og/eller fysiske)のある人を対象とした社会教育・特別教育(Social- og specialpædagogik)である．第一の専門コースを履修したペダゴーは，主に就学前教育機関や就学前学級，そして学童保育に勤務する．

また障害のみならず特別な教育的ニーズのある子どもは就学前教育機関から学校教育への移行支援が重要になる．デンマークの就学前教育機関と学校教育としての就学前学級では主としてペダゴー)が指導を担当することから，ペダゴーは就学前教育と学校教育への移行支援において主たる役割を担っていることがわかる．

一方で2009年就学前学級保障義務化の際には[14]，国民学校における教員とペダゴーの連携強化が図られた．2014 年の国民学校授業数を増加させた国民学校改革(Folkeskolereformen)[1]においても，ペダゴーは国民学校就学支援や国民学校での学習支援などの新しい役割を与えられた．

ペダゴーは国民学校の午後の指導に参画することが多く，授業後の学童保育の指導も担う．その上，就学前学級でもペダゴーが教員とともに指導にかかわるなど，学校教育と児童福祉，保育・幼児教育の橋渡しをする役割が期待されている．2017 年，2018 年には教員とペダゴーの連携に関するプロジェクトの結果も報告されており[8][19]，ペダゴーは国民学校においては「人間関係形成などの生活支援」のみならず「学習指導を中心とした教育支援」のかかわりが増えていることが指摘されている[18]．

類似した専門職としては，スウェーデンの余暇教員(Fritidspedagog)[21]やノルウェーの生活指導員(Miljøterapeut)[36]がある．スウェーデンの余暇教員は就学前教育機関，学童保育や放課後クラブ活動，通常学校や知的障害特別学校，野外活動，高齢者施設等における支援を行う[13]．ノルウェーの生活指導員は学童保育や放課後クラブ活動，通常学校や児童福祉施設，障害者や依存症などのある人への支援などにかかわる[16]．就学前教育や学校教育のみならず社会教育，生涯教育が充実している北欧福祉国家に共通した，教育と福祉の連携や「生活支援」「移行支援」の専門家であると推定される．デンマークのペダゴーも含めて，支援対象が乳幼児から児童・青少年，成人，高齢者や障害者，支援領域が就学前教育や学校教育，社会教育，矯正教育，障害児者教育，児童福祉，障害児者福祉，高齢者福祉など支援対象が幅広い専門家は，北欧福祉国家の特徴と言えるのではないかという問題関心のもと，とくに学校教育との関連でペダゴーに期待される役割や専門性を分析することを通じて，専門性に基づくチーム体制の構築としての「チーム学校」[28]が求められる日本においても有益な示唆を得ることができると考えた．

以上をふまえて本稿の目的は，デンマークの学校教育や関連領域におけるペダゴーの支援の実際とその専門性を分析することを通して，校種間や教育と福祉の連携の視座を得ることとした．

Ⅱ．方法

本研究では調査研究の方法論を用いた．調査概要は以下である．(Table 1)

調査研究は Hovedstaden レギオン(Region，地域の意味，デンマーク内には 5 つの Region がある)に位置する Frederiksberg(以下，フレデリクスベア)自治体の学童保育と København(以下，コペンハーゲン)自治体 Vanløse 地区の国民学校内特別学級を対象に実施した．

フレデリクスベア自治体はコペンハーゲン自治体に囲まれた飛び地であり，独自の市長および市議会を擁している．

一方首都コペンハーゲン自治体の 2021 年の人口は 643,613 人[9]，面積は 86.20 km²である．コペンハーゲン自治体はデンマーク東部のシェラン島東に位置しコペンハーゲン湾に面する．コペンハーゲン自治体は，10 の公認地区(Indre By, Østerbro, Nørrebro, Vesterbro/Kongens Enghave, Valby, Vanløse, Brønshøj-Husum, Bispebjerg, AmagerØst, Amager Vest)によって構成されており，そのうち訪問した Vanløse 地区は，コペンハーゲン自治体の西端に位置する．

写真撮影の際には随時撮影の許諾を得た．倫理的配慮に関しては，聞き取りを実施した研究協力者に対して，論文投稿を含めた研究の目的と聞き取り調査の意図，質問項目を英語の文書で提示し，了承を得られた項目のみを回答してもらった．聞き取りは筆頭著者が英語で実施した．質問項目は，ペダゴーの「専門性」と「移行

支援」の観点から，第一にペダゴーが大事にしていることは何か，第二にペダゴーの専門性は何であると考えるか，第三に配慮の必要な子どもへの支援や情報伝達方法，個別の計画の書き方について，第四に就学時の引継ぎの制度や仕組みについて，を基本として聞き取りを行った．

Ⅲ．結果

1．通常学校の学童保育におけるペダゴーの役割

1.1 Ny Hollænder 国民学校学童保育の概要

通常学校の学童保育におけるペダゴーの役割を検討するために，フレデリクスベア自治体 Ny Hollænder 国民学校[29]学童保育を訪問して，調査および聞き取りを行った．

Ny Hollænder 国民学校は繁華街に位置しているため，特別な建物や敷地の確保が容易ではなく，学童保育は学校から離れた施設の一角に設置されていた．ペダゴーは国民学校の午後の指導に参画し，放課後の学童保育も担当していた．

訪問時の学童保育登録児数は 403 人，学童保育職員数は 22 人であった．学童保育の滞在時間は子どもによって様々であり，主に就学前学級から 3 年までの子どもが学童保育を利用する．子どもの学童保育への出席は子ども自身が ICT 端末に入力する(写真 1)．欠席は事前にデータが入力されている．

学童保育の活動場所は絵を描く部屋，レゴブロックの部屋，ミュージカルの部屋，ままごと

Table 1　調査概要

	Ny Hollænder 国民学校学童保育[11]	Kirkebjerg 国民学校読字書字困難特別学級[23]
調査日	2019 年 3 月 7 日	2019 年 2 月 28 日
自治体/地区	Frederiksberg 自治体	København 自治体内 Vanløse 地区(10 の公認地区の 1 つ)
自治体/地区人口	103,782 人[9]	40,805 人[26]
自治体/地区面積	8.70 km²	6.69km²
国民学校対象学年	就学前学級から 9 年生	就学前学級から 9 年生
国民学校子ども数	955 人	1,100 人
国民学校教職員数	66 人の教員と 34 人のペダゴー	教員とペダゴー合わせて 125 人
国民学校概要	1 学級約 20 人，各学年 ABC の 3 クラス．1 年から 3 年には教員 1 名とペダゴー1 名配置．就学前学級はペダゴー2 名が配置される場合もある．	1 学級最大 28 人で各学年複数学級を編成．特別支援に関しては自閉・ADHD と読字書字困難の二つの部局(afdeling)がある．

写真 1　出席確認

写真 2　木工部屋

写真 3　自然の看板

の部屋，木工部屋(写真 2)など，遊びの種類によって分けられていた．また屋外では，子どもはアスレチックやボール遊びをしており，ベンチや机，自然の木を使った看板(写真 3)は子どもがデザインしていた．

保育では子どもの好きな活動を保障し，ペダゴーは活動環境を準備しているのみであって無理強いはさせていない，とのことであった．学童保育は体験的に学ぶ場である．例えば，学校の算数で 4 メートルを勉強しても実際にはどのくらいなのかわからないため，実際に木を並べて測ることが大切，とのことであった．

1.2 Ny Hollænder 国民学校学童保育のペダゴーに対する聞き取り調査結果

以下に調査項目に従って結果を示す．まず「ペダゴーが大事にしていること」についてである．(Table 2)

このようにペダゴーが大事にしていることは，教員や保護者との連携や子ども主体の活動の保障，であった．次に専門性と配慮が必要な子どもへの支援について聞いた．(Table 3)

このようにペダゴーの専門性としては，個に応じた社会性の伸長があげられ，配慮が必要な子どもへの支援に関しては，障害診断がある子どもの場合は医療情報をもとに支援を行い，障害診断がないが支援が必要な子どもの場合は，就学前教育機関から引き継がれた情報をもとに支援を行う．次に就学時の引継ぎについて聞いた．(Table 4)

このように就学時の引継ぎに関しては，引き継ぎ情報のみならず，就学前教育機関から国民学校の移行期に学童保育で子どもの実態把握を行い，国民学校の就学前学級編成を行うとのことであった．

2. 通常学校の特別学級におけるペダゴーの役割

2.1 Kirkebjerg 国民学校読字書字特別学級の訪問調査結果

Kirkebjerg 国民学校 [22]読字書字特別学級 8 年生を対象においても調査を実施した(写真 4)．8 年生読字書字特別学級(以下，訪問学級)は 5 人が在籍しており，訪問日には 4 人が出席していた．授業によって担当者は変わるが，参観した授業は教員 1 人とペダゴー1 人が担当していた．訪問学級の子どもは通常学級の授業は受けておらず，全時間訪問学級で授業を受けている，とのことであった．それぞれの子どもが通常学級から訪問学級に移行したのは 4 年時，5 年時，7 年時など，様々であった．

参観した授業の内容は，角度の計算や距離の学習であった．授業の始めには一時間の授業でどのような活動をするのかを教員が説明していた．その後個々人でパソコンを用いて課題を進め(写真 5)，わからないときは教員やペダゴーに質問する．同時に教員は子どもの学習の進捗状況をパソコンに入力していた．課題はタイムタイマーを使用して 20 分で区切るなど，細かく休憩を入れる．読字書字困難への支援としては，例えばデンマーク語の発音と文字の対応が視覚的に提示されていた(写真 6)．

他にも「ペダゴーの部屋」があり，リソースルームの機能を担っていた．具体的には 11 時 30 分から約 30 分，休憩が必要な子どもや新しく訪問学級に移行してきた子どもがペダゴーの部屋を利用し，12 時からはペダゴーが子どもを 1 人抽出してペダゴーの部屋で指導をしていた．個別抽出された子どもは能力が高すぎる「ギフテッド」であり，訪問学級の学習内容は簡単すぎて授業に集中できないためペダゴーの部屋を活用している，とのことであった．

他にも二週間に一度学校に訪問する心理士や学校看護師との連携もあるとのことであった．

2.2 Kirkebjerg 国民学校読字書字特別学級のペダゴーに対する聞き取り調査結果

以下に調項目に従って結果を示す．まず「ペダゴーが大事にしていること」についてである．(Table 5)

このようにペダゴーが大事にしていることは，子どもの負の経験の払拭のための子どもとの信頼関係の構築，そして保護者との連携であった．次にペダゴーの専門性について聞いた．(Table 6)

このようにペダゴーの専門性は，学習環境整備やコミュニケーション指導，そして学習に困難を有する子どもへの支援，とのことであった．次に配慮が必要な子どもへの支援について聞いた．(Table 7)

このように配慮が必要な子どもへの支援に関しては，訪問学級において教員の教科指導に対してペダゴーは生活指導を担当しており，必要に応じて通常学級における支援も実施するとのことであった．次に就学時の引継ぎについて聞いた．(Table 8)

このように就学時の引継ぎに関しては，年一度の会議で，共通の書式を用いて，全ての子どもを対象に支援ニーズの情報共有が行われる，とのことであった．必要に応じて巡回相談も実施される．

Ⅳ．考察

1．通常学校の学童保育におけるペダゴーの役割の考察

学童保育においてペダゴーは中心的指導者であった．具体的には，生活の視点から子どもが意欲的に取り組める活動を保障したり，遊びの中で学んだり出来るような環境を提供していた．

また学童保育は，就学前教育機関修了後から学校入学までの約３か月間，子どもが通う場所

Table 2　「ペダゴーが大事にしていること」に関する聞き取り調査結果

質問：ペダゴーが大事にしていることは何か． 回答：協働教授(Co-teaching)[34]を心掛けていること，学校においても教員やペダゴーが説明するだけの活動にはしないこと，子どもが自尊心を高めたり自分を認めたりすることが大事であること，屋内の学習と屋外の学習どちらも大切にしたいこと，子どもの視点に立つこと．また導くだけではなく「子どもと一緒に歩いていく」姿勢でいること，マナーを守ることや礼儀正しくすることなど．正しいこともよくないことも教えるために「はい」，「いいえ」をはっきり伝えられるようにも指導している．子ども自身が決められることは決めさせる．子どもの様子を把握し，子どもの話を聞くことをいつでも大切に考える．子どもに「あなたの心の中，頭の中には何があるか」を問うこともある．保護者と話すことも必要．保護者と話すときには，子どもの成長の事実や今必要なことを伝えるようにしている．

Table 3　「ペダゴーの専門性」と「配慮が必要な子どもへの支援」に関する聞き取り調査結果

質問：ペダゴーの専門性は何であると考えるか． 回答：社会性の発達の促進である．また学級に二十人子どもがいたら，二十通りの性格やニーズがあることを考えることである． 質問：配慮が必要な子どもへの支援や情報伝達方法，個別の計画(Handlingsplan,årsplaner, elevplaner[24])作成について． 回答：二通りある．一つ目は，障害診断があるとき，つまり就学前教育機関ですでに医師や心理士による判断があって何度も会議を行っていたり，ケースファイルを持っていたりするときには，その資料を参考に支援方法を具体化する．二つ目は，障害診断はないが，就学前教育機関のペダゴーが意図的な支援を行っているときには，就学前教育機関ペダゴーと進学予定の国民学校の教員及びペダゴーによる三者会議が一度あり，その場で社会面と学習面についての情報共有と，いかなる支援を行い，何が有効であったか，有効ではなかったのかという内容が伝達される．

Table 4　「就学時の引継ぎの制度や仕組み」に関する聞き取り調査結果

質問：就学時の引継ぎの制度や仕組みについて． 回答：就学前教育機関修了の５月１日から国民学校の新学期開始まで，次年度入学予定の子どもは学童保育で活動する．その期間には６人のペダゴーで構成される「5 月チーム」が対応する．学びの導入としての「今日の日付」や「学習計画の確認」，「1 日を振り返って自分の気持ちを表現する」などの活動を行いつつ，それぞれのペダゴーが全員の子どもとかかわる機会を作る．就学前教育機関からの情報もあるが，新しい目で子どもを見ることも大切である．子どもの様子は逐一記録して，関係者が情報共有する．その上で，子ども個人の社会性や学習能力，身体能力，子ども同士の関係を考えて次年度の就学前学級の編成を考える．

写真４　特別学級の教室

写真５　パソコン教材

写真６　発音と文字の対応

でもある．子ども一人ひとりの発達を様々な視点から把握して，移行支援や就学前学級編成を行っていた．

このように生活指導の専門性を有し，移行支援にもかかわるペダゴーが国民学校入学後も学校での指導にも関与できることは，子どものスムーズな学校適応を促すと考察した．

2. 通常学校特別学級におけるペダゴーの役割の考察

特別学級においてペダゴーは，個に応じた効果的な支援方法の具体化に関して助言を行っていた．その上で，リソースルームでは個別支援を保障していた．

個別の計画においては，教員が教科指導を，ペダゴーが生活指導を主に担当して作成していた．必要に応じて巡回相談も行うペダゴーは，子どもの社会性の育成を含めた特別教育の領域における指導者，助言者，調整役としての役割を担っていると考察した．

3. 総合考察

本稿では，デンマークのペダゴーに注目し，国民学校の学童保育と読字書字特別学級において現地調査を行った．以下に本調査で明らかになったことを「本研究より得られる示唆」，「日本の学校教育制度を念頭に置いた類似点と相違点」,「日本の学校教育制度におけるペダゴーに類似した専門職」,「日本にペダゴーに類似した専門職を導入する際の課題」の観点から以下に示す．

第一に，本研究より得られる示唆，についてである．デンマークのペダゴーの専門性は人間の「発達」と「ケア」であり，ペダゴーは保育・

Table 5　「ペダゴーが大事にしていること」に関する聞き取り調査結果

質問：ペダゴーが大事にしていることは何か．
回答：特別学級の子どもは，通常学級で負の経験をしていることが多い．現在，特別学級では８年生の子どもに通常学級３年生の内容を指導している．以前は暴言を吐いたり,「自分は全然できない」と言ったり，他人を信じることができなかったりする子どもが多かった．そのため一番大事にしているのは，信頼関係を作ることである．ペダゴーでも失敗することがあるし，わからないことがあったりすることも伝える．子どもと保護者に寄り添っていくこと．子どもにここにいてほしい，学校に来てほしいと伝えている．教職員と保護者は対等であり，お互いに尊敬しあう姿勢も大切にすべきである．

Table 6　「ペダゴーの専門性」に関する聞き取り調査結果

質問：ペダゴーの専門性は何であると考えるか．
回答：教員に学習環境についての助言をすること．例えばタイムタイマーの使用やわかりやすい指示の仕方を始めとした，構造化などを提案する．ただし教科内容について教員に助言はしない．ペダゴーの仕事は，教科指導ではなく，アンガーマネージメントやコミュニケーションの仕方などである．この学校では特に，読字書字，算数/数学に支援が必要な子どもが多いため，リソースルームとしての「ペダゴーの部屋」は個別支援も行う特別支援の中心的役割を担っている．

Table 7　「配慮が必要な子どもへの支援」に関する聞き取り調査結果

質問：配慮が必要な子どもへの支援や情報伝達方法，個別の計画作成について．
回答：教員は教科指導を，ペダゴーは子どもの適切な言動やコミュニケーションなどの生活指導を担当して個別の計画を記入する．毎週の指導内容や出欠席などの情報はイントラネットで全校の教職員と保護者が共有できる．子どもの評価や個別の計画作成は，通常学級では半年に一回，特別学級では八週間に一回行っている．通常学校に特別な配慮が必要な子どもがいたとしても，特に読字書字困難は発見されない場合は抽出して支援することが難しい．また抽出指導よりも通常学級に在籍したままで，必要に応じて教員やペダゴーが支援を行う方が，経済的には安価であることも現実である．そして通常学級に在籍していた方が交友関係も広がる．

Table 8　「就学時の引継ぎの制度や仕組み」に関する聞き取り調査結果

質問：就学時の引継ぎの制度や仕組みについて．
回答：一年に一度会議があり，そこで全ての子どもを対象に，引継ぎを行う．就学前教育機関から国民学校への引継ぎ書式が存在し，一から五の五段階，または赤・黄・緑の三段階で支援の必要性を示した子どもの情報が引き継がれる．最も支援の必要性が高い「一」段階や「赤」の子どもが引き継がれる場合は，心理教育ペダゴー(Social Special Pædagog，ペダゴー資格取得後，心理学コースを２年間履修)が巡回相談も含めて，仲介を行う．

幼児教育，学校と余暇教育，社会教育・特別教育の領域において総合的に「生活」を支援する専門家である．実際，学童保育や訪問学級では教員との協働教授や子どもの自尊感情の向上，個性の尊重，コミュニケーションの伸長，自己決定機会の提供，構造化された環境の整備，個別抽出による指導を行っていた．子どもと大人の対話を重視していること [15]が先行研究においても指摘されている．その上で保護者支援，そして外部の専門家との連携も重視していた．家庭の教育力低下が指摘されている日本においても，人間の「発達」と「ケア」を支援する専門家が必要とされよう．

第二に，日本の学校教育制度を念頭に置いた類似点と相違点に関しては，類似点としての教育と福祉の連携の重要性，相違点としての日常的な生活支援の専門家の有無，であると考察した．日本においても多職種連携は強調されており，小学校と学童保育の協力は期待されている．しかし学童保育の指導員としての学童指導員には資格は必要とされていないため「専門家」として認識されているかは疑問が残る．また学童指導員が小学校で指導する場面はない．デンマークの学童保育の主たる指導者は専門大学修了資格を有するペダゴーである．その上学校就学後 1 年目の就学前学級や低学年，特別学級でもペダゴーが教員とともに指導にかかわるなど，学校教育と福祉，保育・幼児教育との橋渡しをする役割が期待されている．また近年は新たな専門性として「学習指導を中心とした教育支援」のかかわりも期待されている．このようにデンマークのペダゴーは，日常的な生活支援や教育と福祉の連携の役割を担っていた．

第三に，日本の学校教育制度におけるペダゴーに類似した専門職について，就学期間の生活支援の専門職としては，日本では児童相談所職員，児童養護施設職員，児童心理治療施設職員，児童自立支援施設職員が想定されるが，それらは日常的な支援を提供する専門職ではない．障害診断や障害福祉サービス受給者証がある場合は，放課後等デイサービス職員による支援も想定される．しかし，その支援は全ての子どもを対象にしてはいない．全ての子どもを対象として，日常的に，小学校区もしくは中学校区で，市町村が運営する組織としての専門職による生活支援が日本では不足していると考察した．

第四に，日本にペダゴーに類似した専門職を導入する際の課題について，ペダゴーが参画する移行支援においては，障害診断がある子どもには定期的な会議が，障害診断がない子どもにも引き継ぎのための会議が開催されていた．その上，就学前教育期間修了後から国民学校就学 [7]までの期間には，提供された情報と個々の実態把握に基づいて，ペダゴーが国民学校就学前学級の編成を考えていた．就学後の個別の計画作成に関しても，教員は教科指導を，ペダゴーは子どもの社会性やコミュニケーション指導を担当するなど，役割が明確に区分されていた．

障害のある子どもには，日本でも公式，非公式の会議や個別の計画を用いた引き続きが行われており，アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの運用は行われている．しかし，保育士資格を有する職員が学校で指導する機会はないなど，日本においては，就学前教育機関から通常学校，学童保育，特別支援に連続的にかかわる可能性のある「専門職」は存在しないため，支援が途切れてしまったり，属人的になったりする．よって，子どもの発達とケアを子ども主体に考え，必要に応じて追加支援や特別支援，保護者支援や多職種連携を行う専門家としてのペダゴーの役割は，日本においても必要とされているであろう．そのためには「生活支援」や保幼小連携における福祉領域の専門職の保障をはじめとした，「就学期間における福祉支援の充実の必要性」の認識が，まずは重要であろう．

文　献

1)BUPL(2017) : Folkeskolereformen kort fortalt. , https://bupl.dk/wp-content/uploads/2017/12/uncategorized-folkeskolereform_kort_fortalt_web-2163.pdf(2022.1.3 取得).

2)Børne-og Undervisningsministeriet(2022) : Elevtal i grundskolen. , https://www.uvm.dk/statistik/grundskolen/elever/elevtal-i-grundskolen (2022.1.3 取得).

3)Børne-og Undervisningsministeriet(2022) : Om efterskoler. , https://www.uvm.dk/efterskoler/om-efterskoler(2022.1.3 取得).

4)Børne-og Undervisningsministeriet(2022) : Om 10. Klasse. , https://www.uvm.dk/folkeskolen/fag-timetal-og-overgange/10-klasse/om-10-klasse (2022.1.3 取得).

5)Børne-og Undervisningsministeriet(2009) : PÅ VEJ I SKOLE. , https://static.uvm.dk/Publikationer/2009/skolestart/index.html(2022.1.3 取得).

6)Børne-og Undervisningsministeriet(2022) : Skolestart og undervisningspligt. , https://www.uvm.dk/folkeskolen/fag-timetal-og-overgange/skolestart-og-boernehaveklassen/skolestart (2022.1.3 取得).
7)Danmarks Evalueringsinstitut(2017) : Den pædagogiske praksis i indskolingen. EVA.
8)Danmarks Evalueringsinstitut(2017) : Lærere og pædagogers samarbejde om undervisningen. EVA.
9)DANMARK STATISIK(2022) : Borgere. , https://www.statistikbanken.dk/10021(2022.1.3 取得).
10)DANMERKS STATISK(2022) : Stadigt flere skolebørn begynder på fri- og privatskoler (opdateret). , https://www.dst.dk/da/Statistik/nyheder-analyser-publ/bagtal/2018/2018-08-02-stadigt-flere-nye-elever-paa-privatskoler (2022.1.3 取得).
11)DinGeoBoliga(2022) : Ny Hollænderskolen. , https://www.dingeo.dk/kommune/frederiksberg/skole/ny-hollaenderskolen(2022.1.3 取得).
12)Eurydice(2022) : Denmark Early childhood education and care. , https://eacea.ec.europa.eu/national-policies/eurydice/content/early-childhood-education-and-care-22_en(2022.1.3 取得).
13)Framtid. se(2022) : Fritidspedagog. , https://www.framtid.se/yrke/fritidspedagog(2022.1.3 取得).
14)Fælles Mål 2009(2009) : Faghæfte 47 Elevernes alsidige udvikling (foreløbig layout).
15)Hygum, E. , Pedersen, P. M. (2017) : Early Childhood Education Values and Practices in Denmark.
16)Høgskoulen på Vestlandet(2022) : Miljøterapeutisk arbeid. , https://www.hvl.no/studier/studieprogram/miljoterapeutisk-arbeid/ (2022.1.3 取得).
17)池田法子(2018) : デンマークにおける特別なニーズのある若者教育政策の展開－特別計画若者教育(STU)を中心に－. 京都大学大学院教育学研究科紀要, 64, 29-41.
18)Jacobsen, R. H. , Bjørnholt, B. , Andersen, M. M. Q. , Tenney Jordan, A. L. T(2017) : Lærere og pædagogers oplevelse af den længere og mere varierede skoledag i folkeskolereformens tredje år, Kortlægning 2017. VIVE.
19)Jensen, V. M. , Skov, P. R. , Kortlægning, E. T. (2018) : Lærere og pædagogers oplevelse af den længere og mere varierede skoledag i folkeskolereformens fjerde år.
20)Jensen, J. J. (2017) : DENMARK ECEC Workforce Profile3 5. , http://www.seepro.eu/English/pdfs/DENMARK_ECEC_Workforce.pdf(2022.1.3 取得).
21)衣川紘子, 是永かな子(2011) : スウェーデンにおける知的障害児に対する余暇教員の専門性. 高知大学教育実践研究, 25, 53-65.
22)Kirkebjerg Skole 公式 Web サイト(2022) : Forside. , https://kirkebjergskole.aula.dk/ (2022.1.3 取得).
23) Kirkebjerg Skole 公式 Web サイト(2022) : Helhedstilbud. , https://kirkebjergskole. aula.dk/helhedstilbud を参照すると現在は特定の社会的, コミュニケーション, 注意に関する課題のある子どもの学級のみ残っているようである.
24)Kirkebjerg Skole 公式 Web サイト, Specialklasserne Helhedstilbud. , https://kirkebjergskole.aula.dk/helhedstilbud(2022.1.3 取得).
25)小谷正(2012) : デンマークの保育者ペダゴーの専門性に関する一考察リレベルト大学社会教育学部における養成課程と実践をもとに, 臨床教育学論集, 5, 27-40.
26)Københavns Kommunes Statistikbank(2022) : https://kk.statistikbank.dk/statbank5a/ default.asp?w=1536(2022.1.3 取得).
27)益本裕美(2017) : デンマークの生活支援員(ペタゴー)育成システムに学んで. ノーマライゼーション 障害者の福祉, 2017 年 8 月号. , https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/prdl/jsrd/norma/n433/n433020.html(2022.1.3 取得).
28)文部科学省(2016) : 初等中等教育分科会(第 102 回)配布資料資料 2－2「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(答申(素案)). , https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1365125.htm(2022.1.3 取得).
29)Ny Hollænderskolen 公式 Web サイト(2022) : Forside. , https://frb-nh.aula.dk/(2022.1.3 取得).
30)Ny Hollænderskolen 公式 Web サイト(2022) : SFO Ny Hollænder. , https://frb-nh.aula.dk/fritid/sfo/sfo-ny-hollaender(2022.1.3 取得).
31)佐々木明員(2013) : デンマークにおける犯罪知的障害者の保護処分制度について(2). 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 20, 73-81.
32)佐藤桃子(2017) : デンマークの保育所における利用者参加の展開保護者の「発言」の経路と機能. 北ヨーロッパ研究, 13, 1-13.
33)School Education Gateway Europas online platform for undervisning i skolerne(2022) :

https://www.schooleducationgateway.eu/da/pub/theme_pages/early_childhood_education.htm (2022.1.3 取得).

34)SUNESEN, M. S. K(2020) : Co-teaching som fælles og lovende tilgang til arbejdet med inklusion, folkskolen. dk. , https://www.folkeskolen.dk/1848239/co-teaching-som-faelles-og-lovende-tilgang-til-arbejdet-med-inklusion (2022.1.3 取得).

35)UddannelsesGuiden(2022) : Pædagog. https://www.ug.dk/uddannelser/professionsbachelor uddannelser/paedagogiskeuddannelser/paedagog(2022.1.3 取得).

36)UTDANNING. NO(2022) : Offentlig og kvalitetssikret, Yrkesbeskrivelse, Miljøterapeut. , https://utdanning.no/yrker/beskrivelse/miljoterapeut(2022.1.3 取得).

(受稿 2022.1.5,　受理 2022.5.30)